

付属資料

1. 策定経過
2. 策定体制
3. 北九州市新ビジョン検討会議
4. 有識者インタビュー
5. 北九州市アドバイザー意見交換会
6. 市民参加の取組み
7. 用語解説

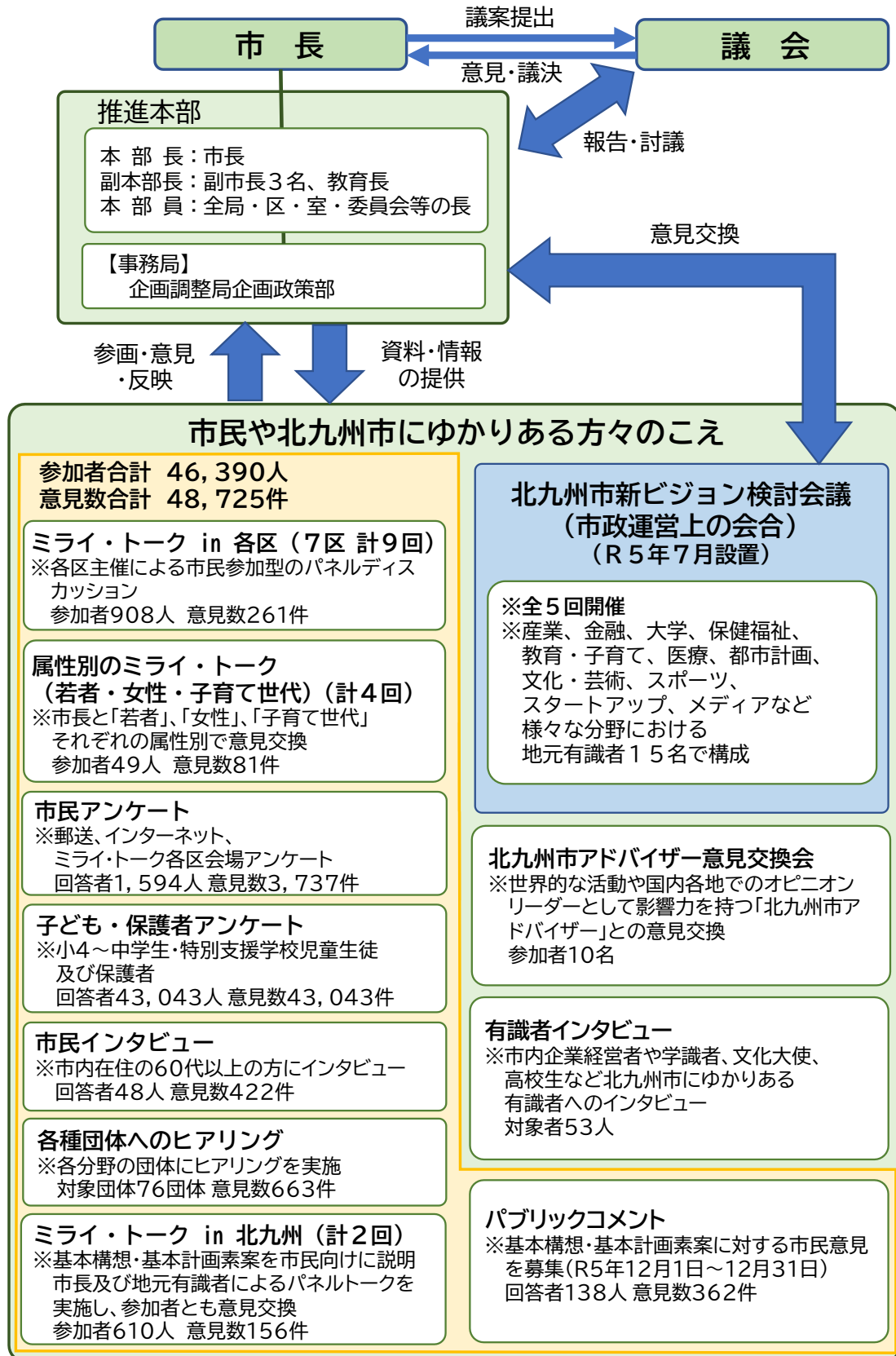
資料

1. 策定経過

	市議会	新ビジョン検討会議	市民参加の取組み等
令和5年5月	常任委員会報告(5/17)		
6月	定例会(6/1~6/28)		
7月	常任委員会報告(7/26)	第1回北九州市新ビジョン 検討会議(7/27)	<ul style="list-style-type: none"> ・ミライ・トーク in 戸畑区(7/17) ・ミライ・トーク in 若松区①(7/22) ・ミライ・トーク in 小倉南区①(7/23) ・ミライ・トーク in 小倉南区②(7/29) ・ミライ・トーク in 小倉北区(7/30) ・市民アンケート(～11月)
8月	常任委員会報告(8/23)	第2回北九州市新ビジョン 検討会議(8/31)	<ul style="list-style-type: none"> ・ミライ・トーク in 八幡東区(8/5) ・ミライ・トーク in 門司区(8/19) ・ミライ・トーク in 若松区②(8/20) ・働く女性とのミライ・トーク(8/24) ・ミライ・トーク in 八幡西区(8/26) ・子ども・保護者アンケート(～9月)
9月	定例会(9/1~10/3)		<ul style="list-style-type: none"> ・若者とのミライ・トーク(9/27,10/12)
10月	常任委員会報告(10/18)	第3回北九州市新ビジョン 検討会議(10/20)	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代とのミライ・トーク(10/10) ・市民インタビュー ・各種団体へのヒアリング(～12月)
11月		第4回北九州市新ビジョン 検討会議(11/28)	
12月	定例会(12/1~12/11) 常任委員会報告(12/8)		<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメント(12/1~12/31) ・ミライ・トーク in 北九州 九州国際大学 KIU ホール(12/16) 北九州国際会議場(12/17)
令和6年1月	常任委員会報告(1/24)	第5回北九州市新ビジョン 検討会議(1/29)	
2月	定例会(2/20~3/25) ※2/20 議案提出		
3月	常任委員会議案審査(3/6) 常任委員会議案採決(3/7) 定例会(3/8 議案採決)		

2. 策定体制

北九州市基本構想・基本計画の策定体制



3. 北九州市新ビジョン検討会議

(1) 北九州新ビジョン検討会議構成員名簿（五十音順、敬称略／令和5年7月現在）

五十音順

壹岐尾 恵美	株式会社コクーン 代表取締役
池尻 和佳子	RKB 毎日放送株式会社 アナウンサー
石田 真一	株式会社ギラヴァンツ北九州 代表取締役社長
伊藤 直子	西南女学院大学 副学長 保健福祉学部長 教授
内田 晃	北九州市立大学 副学長 地域戦略研究所 所長
津田 純嗣	北九州商工会議所 会頭
寺山 大右	日本銀行 北九州支店長
永田 昌子	産業医科大学医学部 准教授
平山 由夏	株式会社ネーブルグリーン 代表取締役
松永 裕己	北九州市立大学大学院 教授
松永 守央	公益財団法人北九州産業学術推進機構 理事長
松本 真理子	九州女子大学人間科学部 講師
三谷 康範	九州工業大学 学長
宮坂 春花	株式会社 Quore 代表取締役
柳井 雅人	北九州市立大学 学長

(2) 会議経過

	開催日	議題
第1回	令和5年7月27日(木)	1 開会 2 構成員および事務局の紹介 3 事務局説明 4 意見交換(1) 5 市長挨拶 6 意見交換(2) 7 事務局からの連絡 8 閉会
第2回	令和5年8月31日(木)	1 開会 2 議題1 ～北九州市の新ビジョンを考える際の視点について～ 3 議題2 ～若者および女性の定着や活躍について～ 4 事務局からの連絡 5 閉会
第3回	令和5年10月20日(金)	1 開会 2 議題 ～新たなビジョンに係る意見の 中間とりまとめ～ 3 事務局からの連絡 4 閉会
第4回	令和5年11月28日(火)	1 開会 2 議題 ～新たなビジョンの素案について～ 3 事務局からの連絡 4 閉会
第5回	令和6年1月29日(月)	1 開会 2 市長挨拶 3 議題 ～新たなビジョンの最終案について～ 4 事務局からの連絡 5 閉会

・会議当日の資料及び会議録は、市ホームページに掲載。

4. 有識者インタビュー

期 間 令和5年9月～令和6年1月

項 目 【過去】将来も引き継ぐべき歴史や価値観

【現在】ポテンシャル

【未来】おおむね20年先を見据えた目指すべき姿 など

実施人数 北九州市内在住及び北九州市にゆかりのある有識者 計53名

※インタビュー内容は、市ホームページに掲載。

ご協力いただいた皆様（五十音順、所属・肩書きはインタビュー当時）

浅野	幸男	株式会社デンソー九州 代表取締役社長
朝比奈	一郎	青山社中株式会社 筆頭代表 CEO
麻生	渡	一般財団法人九州オープンイノベーションセンター最高顧問・元福岡県知事
天野	功一	天寿し
飴野	仁子	関西大学商学部 教授
井上	羽菜	福岡県立小倉高等学校
岩元	美智彦	株式会社 JEPLAN 取締役執行役員会長
上野	伶華	北九州市立高等学校
中村	翔	
遠藤	直人	株式会社 YE デジタル 代表取締役会長
大久保	大助	特定非営利活動法人 KID's work 代表
大迫	順平	九州朝日放送株式会社 取締役
岡	秀樹	株式会社 HOA 代表取締役
小笠原	浩	株式会社安川電機 代表取締役会長
岡田	芳正	日鉄エンジニアリング株式会社 執行役員
岡野	武治	岡野バルブ製造株式会社 代表取締役社長
奥山	由布子	有限会社シロヤ 代表取締役社長／CEO
鎌田	實	諏訪中央病院 名誉院長
鎌田	恭幸	鎌倉投信株式会社 代表取締役社長
菊池	勇太	合同会社ポルト 代表
北橋	健治	前北九州市長
隈	研吾	建築家
栗栖	利蔵	ヤマトホールディングス株式会社 代表取締役副社長執行役員
佐久間	庸和	株式会社サンレー 代表取締役社長

佐々木	紀彦	PIVOT 株式会社 代表取締役社長 CEO
佐藤	崇史	株式会社資さん 代表取締役社長
柴野	雅人	北九州市立大学
嶋田	瑞生	株式会社 ATOMica 代表取締役 Co-CEO
下岡	純一郎	株式会社クアンド 代表取締役 CEO
下田	瑞葵	福岡県立東筑高等学校
末吉	興一	公益財団法人アジア成長研究所 名誉理事長・元北九州市長
高木	美奈	株式会社チャムズ（子育て応援サイト kids cham） 代表
佐々木	遥香	
高橋	理沙	LINE ヤフー株式会社
田中	亮一郎	第一交通産業株式会社 代表取締役社長
築城	則子	遊生染織工房 主宰
辻	正隆	株式会社 gaaboo 代表取締役社長/プロデューサー
辻野	晃一郎	アレックス株式会社 代表取締役社長兼 CEO
津田	純嗣	北九州商工会議所 会頭
鶴見	智	北九州工業高等専門学校 校長
葉月	けめこ	北九州市文化大使
林	良祐	TOTO 株式会社 取締役専務執行役員
古長	由里子	日本 IBM デジタルサービス株式会社 九州 DX センター長
町田	修	株式会社スターフライヤー 代表取締役社長執行役員
町田	そのこ	北九州市文化大使
松永	守央	公益財団法人北九州産業学術推進機構 理事長
三谷	康範	国立大学法人九州工業大学 学長
三井	康誠	株式会社三井ハイテック 代表取締役社長
棟安	正人	北九州ホテル協議会 会長
森田	隼人	シャボン玉石けん株式会社 代表取締役社長
柳井	雅人	北九州市立大学 学長
吉成	安恵	独立行政法人国際協力機構九州センター 所長
吉村	公登	日本製鉄株式会社 九州製鉄所総務部長

5. 北九州市アドバイザー意見交換会

開催日時 令和5年7月13日(木) 13:00~14:00

開催場所 ザ・キャピトルホテル東急

内 容 ・世界や日本から見た北九州市のポテンシャル
・その可能性を引き出すためのアクション など

参加者 北九州市アドバイザー10名

五十音順

朝比奈 一郎	青山社中株式会社 筆頭代表 CEO
鎌田 實	* 諏訪中央病院 名誉院長
鎌田 恭幸	鎌倉投信株式会社 代表取締役社長
木下 斉	一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス 代表理事
隈 研吾	* 株式会社隈研吾建築都市設計事務所
佐々木 紀彦	PIVOT 株式会社 代表取締役 CEO
辻野 晃一郎	アレックス株式会社 代表取締役社長兼 CEO
林 英恵	* Down to Earth 株式会社 代表取締役
宮田 裕章	慶應義塾大学医学部 教授
山口 周	株式会社ライブニッツ 代表取締役

* オンライン参加

※資料及び動画等は、市ホームページに掲載。

6. 市民参加の取組み

(1) ミライ・トーク in 各区

・まちづくり活動など各区で活躍されている方をパネリストとして、「区の将来像」をテーマとした市民参加型のパネルディスカッションを7区で開催。

・開催内容、日時及び参加人数等

開催内容	開催日時	参加人数	Youtube 視聴回数
ミライ・トーク in 戸畑区	令和5年7月17日(月祝) 10時~12時	104人	3,322回
ミライ・トーク in 若松区①	令和5年7月22日(土) 13時~15時	76人	1,701回
ミライ・トーク in 小倉南区①	令和5年7月23日(日) 10時30分~12時	83人	2,138回
ミライ・トーク in 小倉南区②	令和5年7月29日(土) 10時30分~12時	80人	1,395回
ミライ・トーク in 小倉北区	令和5年7月30日(日) 15時~16時40分	56人	1,929回
ミライ・トーク in 八幡東区	令和5年8月5日(土) 13時30分~15時30分	149人	1,753回
ミライ・トーク in 門司区	令和5年8月19日(土) 14時~16時	184人	1,216回
ミライ・トーク in 若松区②	令和5年8月20日(日) 13時~15時	52人	1,231回
ミライ・トーク in 八幡西区	令和5年8月26日(土) 13時~15時	124人	1,121回
合計		908人	15,806回

※Youtube(北九州市公式チャンネル)の視聴回数は令和6年3月1日現在

・意見数 261件

※当日の会場での意見及び市の考え方は、市ホームページに掲載。

(2) 属性別のミライ・トーク

- ・「働く女性」「若者」「子育て世代」の属性別に市長との意見交換を実施。
- ・開催内容、日時及び参加者

開催内容	開催日時	参加者
働く女性との 「ミライ・トーク」	令和5年8月24日(木)	市内で働く20代から30代の女性8名
若者との 「ミライ・トーク」	令和5年9月27日(水) 令和5年10月12日(木)	29歳以下の 社会人・大学生延べ37名
子育て世代との 「ミライ・トーク」	令和5年10月10日(火)	子育てをしている 市内在住者4名

- ・意見数 81件

※意見交換会での意見及び市の考え方は、市ホームページに掲載。

(3) 市民アンケート

- ・ミライ・トーク in 各区での会場や、市ホームページ等でアンケートを実施。
- ・アンケート実施期間
令和5年7月～11月
- ・アンケート実施方法及び回答者数

アンケート実施方法	回答者数(延べ)	意見数
ミライ・トーク in 各区の来場者に アンケートを配布	1,347人	2,663件
市ホームページでのWebアンケート または郵送によるアンケート	247人	1,074件

※アンケートでの意見及び市の考え方は、市ホームページに掲載。

(4) 子ども・保護者アンケート

- ・子ども・保護者を対象とするアンケートを実施した。
- ・アンケート対象者及び実施方法

アンケート対象者		実施方法
子ども	北九州市立小学校・中学校・ 特別支援学校に通う 小学校4年生～中学校3年生	GIGA 端末を用いた Web アンケート または紙アンケート
保護者	北九州市立小学校・中学校・ 特別支援学校に通う 児童・生徒の保護者	Web アンケート (保護者連絡ツール tetoru 等で周知)

- ・アンケート実施期間
令和5年8月～9月

- ・アンケート回答者数

児童生徒	34,089人
保護者	8,954人
計	43,043人

- ・アンケート結果は、市ホームページに掲載。

(5) 市民インタビュー

- ・市内に居住する60代以上の方を対象にインタビューを実施。
- ・実施時期及び実施人数・意見数
実施時期 令和5年10月 実施人数 48人 意見数 422件
- ・インタビューでの意見と市の考え方は、市ホームページに掲載。

(6) 各種団体へのヒアリング

- ・市内の各種団体にヒアリングを実施。
- ・実施時期及び実施団体数・意見数
実施時期 令和5年10月～12月 実施団体数 76団体 意見数 663件
- ・ヒアリングでの意見と市の考え方は、市ホームページに掲載。

(7) ミライ・トーク in 北九州

- ・新たなビジョン（素案）を市民向けに説明するイベントを開催。
- ・当日は、市長が新たなビジョン（素案）についてのプレゼンテーションを行ったほか、北九州市新ビジョン検討会議構成員とのパネルトークを実施。
- ・開催日時、場所、参加人数、意見数

開催日時	場所	参加人数	意見数
令和5年12月16日（土） 13時～15時	九州国際大学 KIU ホール	280人	156件
令和5年12月17日（日） 13時～15時	北九州国際会議場	330人	

- ・当日の会場での意見と市の考え方は、市ホームページに掲載。

(8) 北九州市の新たなビジョン（素案）に対する市民意見募集

- ・募集期間
令和5年12月1日（金）～令和5年12月31日（日）
- ・意見提出人数、意見数
意見提出人数 138人 意見数 362件
- ・提出方法

方法	電子申請	電子メール	郵送	持参
人数	91人	30人	8人	9人
件数	158件	145件	47件	12件

- ・提出された意見の内訳

項目		件数	
1	基本構想・基本計画全体	22件	
2	構想	北九州市が目指す都市像	3件
3		第1章 北九州市の挑戦	28件
4		第2章 目指す都市像の実現に向けた3つの重点戦略	34件
5	計画	第1章 計画の策定にあたって	4件
6		第2章 「稼げるまち」の実現	78件
7		第3章 「彩りあるまち」の実現	80件
8		第4章 「安らぐまち」の実現	55件
9		第5章 人口増に向けた道筋	11件
10		第6章 主要な成果指標	17件
11		第7章 7つの個性が輝くまちづくり	17件
12	その他	13件	

- ・提出された意見と市の考え方は、市ホームページに掲載。

7. 用語解説

	用語	解説	掲載ページ	
			基本構想	基本計画
あ	アーバンスポーツ	ブレイキン、パルクール、3×3、BMX、スケートボードなどの都市型スポーツを指す。 音楽やファッションなど若者文化が融合したものとして、従来のスポーツの枠を超えた領域にあり、競技者もスポーツという側面にこだわらず、遊びやカルチャーの延長線上にとらえているという特徴を持つ。		P10
	アントレプレナーシップ教育	起業家精神(チャレンジ精神、創造性、探求心等)と起業家的資質・能力(情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等)を有する人材を育成する教育のこと。		P5
い	イノベーション	技術革新にとどまらず、生活スタイルや社会システムを大きく変えるような「一大革新」や「新機軸」のこと。		P3
	インターナショナルスクール	法令上特段の規定はなく、一般的には英語により授業が行われ、主に外国人児童生徒を対象とする教育施設のこと。		P11
う	ウェルビーイング	身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。		P11
	ウォーカブル	「Walkable」は「walk(歩く)」と「able(できる)」を組み合わせた造語。 「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出により、まちの魅力を高め、多様な人を呼び寄せる。		P9
か	カーボンニュートラルポート	次世代エネルギーとして期待される水素・アンモニアなどの受入環境の整備や、貨物を運ぶ船や機械、トラック、臨海部の工場や発電所などの産業の脱炭素化を通じて、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることを目指す港のこと。		P5
	回遊性	観光客や市民などが様々な場所を歩き回る行動のこと。		P20
	環境配慮型製品	環境負荷ができるだけ小さい製品やサービス又は環境負荷の低減に役立つ製品やサービスのこと。	P6	
	関係人口	移住した「定住人口」でも、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々のこと。		P24
き	気候変動	産業活動など的人為的な行為により、自然界(平均気温の上昇や海面水位の変化)や社会生活(大雨の被害や農作物の品質低下)に大きな影響を及ぼすもの。	P6	

	用語	解説	掲載ページ	
			基本構想	基本計画
	北九州エコタウン	北九州市の長年にわたる「ものづくりのまち」としての産業基盤や技術力、公害克服の過程で培われた人材・技術・ノウハウ等を活かして資源循環型社会の構築を図るため、「環境保全政策」と「産業復興」を統合した独自の地域政策のこと。	P5	
	北九州学術研究都市	2001年4月に「アジアに開かれた学術研究都市」として、「新たな産業の創出・技術の高度化」を目指して福岡県北九州市若松区にオープンした研究開発・産学連携拠点のこと。		P27
	北九州市産業振興未来戦略	経済社会環境の変化に対応するとともに、北九州市が持つポテンシャルを開花させることにより、「稼げるまち」の実現を目指す産業振興戦略(令和6年3月策定)のこと。		P2
	北九州市政変革推進プラン	次世代への投資を行いつつ、行財政運営のあり方を再構築する「市政変革」に取り組むにあたり、基本原則、見直しの視点、目標値、具体的な取組項目と工程表等を定めたもののこと。(令和6年3月策定)		P4
く	グランピング	グラマラス(魅惑的な)とキャンピングを掛け合わせた造語で、テント設営や食事準備などがあらかじめ用意されているもののこと。		P27
	グリーン産業	持続可能な方法で生産された投入物、再利用の原材料、水・エネルギー・鉱物の使用を抑えた有害物質のない生産プロセス、廃棄物の再利用とリサイクル、温室効果ガスと汚染物質の排出削減、耐久性が高く長寿命の製品といった特徴を持つ産業のこと。		P7
	グリーン成長	地球温暖化への対応を経済成長の機会と捉え、産業構造や社会構造を変革し、「経済と環境の好循環」を作っていく産業政策のこと。		P7
け	刑法犯認知件数	警察等捜査機関によって犯罪の発生が認知された件数のこと。	P5	
	健康寿命	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。		P17
	健康リテラシー	健康や医療に関する正しい情報を入手し、理解して活用する能力のこと。		P13
こ	高付加価値化	ある製品やサービスに手を加えることにより、その価値を高めようとする事。	P9	
	交流人口	買い物、通勤・通学、文化、スポーツ、レジャー、観光、ビジネスなどのさまざまな目的で、その地域を訪れた(交流した)人口のこと。		P24
	コートダジュール	世界中から観光客が訪れるフランス南部、地中海沿岸の人気リゾート地のこと。		P26

	用語	解説	掲載ページ	
			基本構想	基本計画
	国勢調査	国内の人口や世帯の実態を明らかにするために5年ごとに行われる統計調査のこと。		P14
	国立社会保障・人口問題研究所	厚生労働省に所属する国立の研究機関であり、社会保障及び人口問題に関する調査及び研究を行うことを通じて、国民の福祉向上に貢献することを目的として設立された研究所のこと。		P38
	雇用者報酬	現金給与や現物給与のほか、健康保険や厚生年金など雇用する側が負担する社会保険料など、生産活動から発生した付加価値の雇用者への分配額のこと。	P9	
	コワーキングスペース	さまざまな年齢、職種、所属の人たちが空間を共有しながら仕事を行うスペースのこと。		P22
	コンパクトシティ	都市の中心部やその周辺の生活利便性の高い地域に社会基盤の集中投資を行い、行政・商業施設や住宅などさまざまな機能が集積した持続可能な都市構造のこと。		P12
	コンベンション	特定の目的のために国内外から参加者を集めて行われる国際会議や学会等のこと。		P22
	合計特殊出生率	15～49歳までの女性の年齢別出生率の合計のこと。		P17
さ	サーキュラーエコノミー	従来の3Rの取組に加え、資源投入量や消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動のこと。		P7
	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマス、地熱といった自然エネルギーのこと。温室効果ガスを排出せず、国内で生産できることから、重要な低炭素の国産エネルギー源である。		P7
	サテライトオフィス	企業または団体の本拠から離れたところに設置されたオフィスのこと。		P22
	産学官民	産業界(民間企業)、学校などの教育・研究機関、官公庁、民間(地域住民・NPO)のこと。	P5	
し	シェアオフィス	複数の企業、団体、個人がひとつのオフィス機能をもつ空間を共有すること。		P22
	資源循環型社会	廃棄物の排出が抑制され、排出された廃棄物は、可能な限り資源として適正かつ有効に利用され、どうしても利用できなかったものは、適正に処分されることにより天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が低減される社会のこと。	P6	
	自然動態	一定期間における出生・死亡に伴う人口の動きのこと。		P14

	用語	解説	掲載ページ	
			基本構想	基本計画
	支店経済都市	企業の支社・支店が集積する都市のこと。	P7	
	市内総生産	北九州市において、一定期間内(通常1年間)に市内各経済部門の生産活動によって、新たに生み出された価値(付加価値)の評価額のこと。	P9	
	死の海	1960年代、洞海湾の水質の汚濁が進み、溶存酸素量が著しく低く生物が生息しにくい環境となっていたことから洞海湾を「死の海」と称した。	P5	
	シビックプライド	まちに対する「愛着」や「誇り」のこと。	P8	
	社会動態	一定期間における転入、転出及びその他の増減に伴う人口の動きのこと。		P14
	集散地	農産物や日用品、食用品などを生産地から集め、消費地に送り出す場所のこと。	P4	
す	スタートアップ	新しいビジネスモデルを考え新たな市場を開拓し、社会に新しい価値を提供し、社会に貢献することによって、事業の価値を短期間で飛躍的に高め、株式上場や事業売却を目指す企業や組織のこと。	P7	
	ステークホルダー	事業実施の際に、直接または間接的に影響を受ける利害関係者のこと。		P7
	スマート技術	ロボット技術や情報通信技術などの先端技術のこと。スマート技術を利用した農業を「スマート農業」と呼ぶ。		P7
	3R	天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が低減される循環型社会を形成するための取組で、まずはごみの「発生抑制」(リデュース)を行い、次に出てきたごみは「再使用」(リユース)し、再使用できない場合でも資源として「再生利用」(リサイクル)すること。		P39
せ	政令指定都市	政令で指定を受けた人口50万人以上の都市のこと。	P4	
	ゼロカーボンシティ	2050年までに脱炭素社会の実現(温室効果ガスの排出を全体としてゼロとすること)を目指すことを表明した地方公共団体のこと。	P6	
て	鉄冷え	鉄鋼業の業績が低迷すること。	P7	
と	都市型住宅	都市部における敷地の狭さや周囲の環境などの問題を考慮して建てられた住宅のこと。		P30
	特区制度	国が指定した地域において、特別に、規制・制度の特例、税制・財政・金融措置などの支援を行う制度。		P6

	用語	解説	掲載ページ	
			基本構想	基本計画
	トレイルランニング	林道、砂利道、登山道などの未舗装路を走るスポーツのこと。		P25
な	七色の煙	1960年代、四大工業地帯の一つとして発展した北九州市で見られた、様々な色がついた煙が排出されていた状況を虹にたとえて「七色の煙」と称した。	P5	
に	2地域居住	都市部と地方部に2つの拠点をもち、定期的に地方部で仕事をしたり、趣味などゆとりある生活をしたりする新しいライフスタイルの1つのこと。		P24
は	バイオマス	生物資源(bio)の量(mass)を表す概念で、再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもののこと。		P26
ひ	ビオトープ	本来、生物の生息空間を指す専門用語であるが、日本では一般的に、開発事業などによって環境の損なわれた土地や都市内の空き地、校庭などに新たに造成された生物の生息空間の意味で用いられる。		P27
ふ	付加価値	企業等の事業活動によって新たに生み出された価値のこと。		P16
へ	ヘルスケア	健康の維持や増進のための行為や健康管理のこと。		P13
ほ	包摂性	包み込むという意。北九州市基本構想・基本計画においては、「個性・特徴を認めあい、一緒に活動すること」(＝インクルージョン)として定義。	P4	
	貿易不均衡	外国との貿易の結果、輸入と輸出のバランスが取れず不均衡な状態になること。	P7	
	暴力追放運動	警察・弁護士の他、関係機関と連携をとりながら、官民一体となって、相談活動や暴力追放意識高揚のための啓発活動・暴力団等の排除活動などの取組のこと。	P5	
	ポップカルチャー	漫画・アニメ・ゲーム・映画などの大衆向け文化のこと。		P10
り	リスキリング	新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適應するために、必要なスキルを獲得する、または、させること。		P6
A	AI	Artificial Intelligence の略。「人工知能」。人工的に作られた知能を持ち、自身が学び、従来人間にしかできなかったような高度に知的な作業や判断を行うことができるコンピュータシステムやソフトウェアのこと。	P9	

	用語	解説	掲載ページ	
			基本構想	基本計画
D	DX	Digital Transformation の略。最先端のデジタル技術を企業や行政などに広く浸透させることで、人々の暮らしをより便利で豊かなものへと変革すること。	P9	
E	EV	Electric Vehicle の略。電気を動力にして動く車両で、電動車両全般のこと。		P8
G	GX	Green Transformation の略。 カーボンニュートラルの実現と産業競争力の強化を同時に実現するために、経済社会システム全体を変革させること。		P8
J	JICA	Japan International Cooperation Agency の略。開発途上国への国際協力を行っている独立行政法人国際協力機構のこと。		P28
K	KPI(成果指標)	Key Performance Indicator の略。「重要業績評価指標」。目標を達成するための取組の進捗状況を定量的に測定するための指標。		P2
M	MaaS	Mobility as a Service の略。地域住民や旅行者一人ひとりのトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスのこと。		P28
	MICE	企業等会議(Meeting)、企業などの行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称のこと。		P10
N	NPO	Non-Profit Organization の略。民間非営利組織のこと。		P3
S	SDGs未来都市	SDGs の理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高いと国から選定された都市・地域のこと。	P5	
	Sea&Air 輸送	航空輸送と海上輸送を組み合わせた輸送のこと。		P5